

「山上の変貌」

2022年02月23日

すると、彼らの目の前でイエスの姿が変わり、衣は真っ白に輝いた。それは、この世のどんなさらし職人の腕も及ばぬほどだった。エリヤがモーセと共に現れて、イエスと語り合っていた。(マルコ福音書9章2節b～4節)

イエスは言われた。「確かに、まずエリヤが来て、すべてを立て直す。では、人の子については、どのように書いてあるか。多くの苦しみを受け、蔑まれるとある。しかし、言っておく。エリヤはすでに来たのだ。そして、彼について書いてあるとおり、人々は好きなようにあしらったのである。」(マルコ福音書9章12節～13節)

ペトロは「あなたは、メシアです」と「キリスト告白」をした。それを受けて、主イエスは、時の権力者たちから苦しみを受けて殺されるが、三日目に復活すると告げられた。主イエスは弟子たちに、「自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従いなさい」と命じられた。そして、主イエスのため、福音のために自分の命を失う者は、神の命に与る救いを得ると明言された。

これらのことを語られた6日後、ペトロ、ヤコブ、ヨハネの3人を連れて、高い山に登られた。高い山はどこか山かを詮索する必要はない。「山上の変貌」は歴史的事実ではなく、マルコ福音書の著者が主イエスに対する信仰を著したものである。4人で高い山に登ると、3人の弟子たちの目の前で、主イエスの姿が変わり、衣は真っ白に輝いた。どんなさらし職人の腕も及ばぬほどの白さであった。すると、エリヤがモーセと共に現れて、3人は語り合っていた。エリヤは預言者を代表し、モーセは律法を意味している。これは、主イエスが預言者と律法を成就する方であることを表わしている。「山上の変貌」の主イエスの姿は預言者と律法の完成者としてのメシアの姿であり、それは即、主イエスは神の子・キリストであるとのメッセージである。ペトロは驚き、恐れて、何を言っているのかわからず、「先生、私たちがここにいるのは、素晴らしいことです。幕屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのために」と口をはさんだ。すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から、「これは私の子、これに聞け」という声がした。弟子たちは辺りを見回したが、もはや誰も見えず、主イエスだけが3人の弟子たちと一緒におられた。純白の衣、雲などは典型的な神顕現の象徴で、主イエスは殺されるが、復活する神の子であり、全てのことはこの方に聞けと命じられたという、著者の主イエスに対する信仰告白を著している。

一同が山を下っている時、「人の子(主イエス)が死者の中から復活するまで、今見たことを誰にも話してはならない」と厳命された。弟子たちは、このことを心に留めたが、死者の復活は理解できないことなので、どういうことかと論じ合った。そして主イエスに、メシアが到来する前には、「なぜ、律法学者たちは、まずエリヤが来るはずだと言っているのでしょうか」と問うた。主イエスは、「確かに、まずエリヤが来て、すべてを立て直す」、人の子(メシア)については、多くの苦しみを受け、蔑まれると書かれていると答えられ、更に、「言っておく。エリヤはすでに来たのだ」、人々は彼を好きなようにあしらったと言われた。踊りの褒美に、獄中で斬首された洗礼者ヨハネがメシアの前に遣わされたエリヤであると暗示的に言われた。「山上の変貌」を見た弟子たちは、ヨハネがエリヤであると聞き、主イエスがメシアであると知らされる。主イエスは、ここから受難の道を辿って行く。